会議録

名称	令和５年度第４回目黒区子ども施策推進会議
日時	令和５年１２月２６日午前１０時から
開催方法	対面とオンラインの併用開催
出席者	（委員）金子恵美会長、髙橋貴志副会長、大竹智委員、有村大士委員、片川智子委員、清田俊子委員、狩俣照代委員、黒田英二委員、矢口捺視委員、山内彩委員、植田泰委員、岩男加代委員、武市睦子委員、岡秀樹委員、北村衛也委員、飯田優子委員、冨山美欧委員、岩前真委員、原田恵一委員、田村直宏委員 欠席：水野恭子委員 （事務局）子育て支援部長、子育て支援課長、放課後子ども対策課長、子ども家庭支援センター所長、子ども家庭支援拠点整備課長、保育課長、保育計画課長、教育政策課係長（オブザーバー）
傍聴者	２名
配布資料	資料１　目黒区子ども総合計画（令和２年度～令和６年度）の体系 資料２－１　子ども総合計画改定に係る基礎調査（中間報告）について 資料２－２　基礎調査結果（単純集計表）小学校入学前児童保護者 資料２－３　基礎調査結果（単純集計表）小学生保護者 資料２－４　基礎調査結果（単純集計表）小学生 資料２－５　基礎調査結果（単純集計表）中高生 資料３　子ども総合計画改定に向けた意見聴取等の取組について（案） 資料４　特定教育・保育施設の定員について 資料４－１　確認施設及び予定定員数（令和６年４月１日予定） 資料５　鷹番保育園跡を活用したこども家庭センター等の概要
会議次第	１　開会 ２　子育て支援部長挨拶 ３　資料確認 ４　議題 ５　閉会

会議の結果および主な発言

１　開会
２　子育て支援部長挨拶
３　資料確認
４　傍聴確認
５　議題

（１）子ども総合計画の新体系について

●子どもの権利の尊重が、「主な事業」になってしまうのではないのか。
本当に「子どもが企画して主体的にやりたい」と思って行う事業なのか。事業をすることになることが目的になっているのではないか。
意見表明権は、大人が子どもの視点に立って、意見を聴くことではないか。学校や保育所や学童なりの大人の関わり方自体、子どもに関わる大人をどう変えていくかを行うことが、事業になるべきなのではないか。そうでないと実は変わっていかないのでは。
→大人と子どもの関わり合いが少なくなっているのではないか。一緒になって作っていくことが大切だと思う。子どもの意見が自然に出てくるようにするには、意見をどのように吸い上げていくのか。子どもが大人を信頼できる社会の構築が必要。

●今の子どもたちは「お受験」をしている、特に目黒区はお受験が多い。何校も受けていたり、年度末まで受けたりしている。中学受験では半数くらいは受験する。年長の子どもがあちこちに習い事をし、受験をし、ストレスを抱えている。親は子どものためと思いやっているが、本当に子どものためになるのか。子どもの意見を聞いているのか。大人が子どもの人生を決めている。子どもの意見を聴いていないのではないか。目黒区はこの傾向が強いと思う。
そのため、目黒区で子どもの意見を聴くこと、権利の尊重が大切。大人の考え方・意識を変えていくべきだと思う。
また、保育園は学校ではなく、幼児教育を担っている。学校教育とは別に、幼児教育として考えるべきだと思う。

●「子どものエンパワーメント」に関しては、どこにパワーがあるかを考えなければならない。子どもがパワーをもって、社会に意見を表明していくのかが、重要だと思う。
20 歳代が間に入って繋いでくれるのは大きい。どう見えているのか、どうしたら子どもたちに通じるのか、意見をもらいながら改革していく必要がある。

●子どもが居場所を選択できることが大事。子どもが行きたい小中学校を選べない。だからこそ不登校が起きる状況もあるのではないか。
だからこそ行政でできることがある。山村留学、公立のフリースクールなど、いろんな選択肢を提示できるとよいと思う。それがあって子どもたちが行きたい選択を出来る。今の目黒区はエミールしかない。行き場所・居場所を打ち出してほしい。

●高校受験があるので、中学生は意見を表明すると、内申点が悪くなるなどあるため、表明しないことがあるのではないか。国の制度にもよると思うが、こういったところを変容していく必要があるのではないか。中学 3 年生は特に言いにくい。先生の中には人間ですから、意見を言うと面白ないという方もいる。その辺り考えていただけると親としてありがたい。

●内申点について、誤解されていると思う。先生に逆らっていても、点数や授業態度などが良けれ

ば、内申点は問題ない。どんどん意見を表明してほしいと思う。

●社会として、「出る杭は打たれる」雰囲気が子どもだけでなく、大人にもある。これは日本社会の問題。子どもの意見表面権を抑えている要因でもある。大人のそのような雰囲気を子どもは感じ取る。そこを変えない限り子どもからの意見表明は生まれない。意見を尊重するということを整えていかなければ、子どもたちは安心して発言できない。意見を「言っていく」ということを推奨すべき。

●子ども真ん中という言葉に違和感がある。真ん中にいるということは、大人の目があるということで、息苦しい。子どもが引っ張っていく社会に、大人が伴走していくことが大事だと思う。

●「子どもの意見表明権」という深いところだけではなく、「子どもの意見を取り入れる」というような小さいところから行うべきなのではないか。イベントなどを自分は行っているが、そこでは看板作りから進め方、役割などを自分たちで決めてやっている。大人の立場としてはそこに寄り添うという形が大切ではないか。

●「子ども」の年齢についてであるが、39 歳までが範囲となることについては、どうかと思っている。30 歳までに若者を広げるべきなのか。18 歳未満に限定すべきではないのか。大人を子ども扱いしたら日本が滅びると思う。

●18 歳では難しいのではないか。18 歳以上でも支援をする必要がある子どもが増えている。ある程度の年齢までは必要。30 歳までである必要はないが、20 歳以上には支援をする必要があるのではないか。

●子ども施策に、18 歳以上全員を含めることをしなくていいのではないか。もう自立出来ている人も対象に含まれてしまう。必要な方だけ支援すればいい。18 歳以上全員を対象にするのは反対。

●支援策としての行政の区切りをどうするかという話で、子ども施策に、18 歳以上を含めることは、支援現場から上がっている意見である。切れ目ない支援を行うためには理解が必要である。

●児童福祉法の枠の中で叶えられないもの、もっと大きな枠で捉えないと解決できない問題が出てきている現状がある。大人になる過程で子どもの部分があり、大人の枠組み内では解決できない現状がある。

●現状、だんだん年齢のところが撤廃されてきている。目黒区でも切れ目ない支援というところにもつながっていく。また、子どもという字を漢字にするか平仮名にするかは、色々な議論があって、こども家庭庁のこども基本法も、すべて「こども」とひらがな表記となっているので、そこ

は目黒区として、背景・理念をもってどう表記するか議論されれば良いのかなと思った。

●日本では 18 歳が成人となる。このタイミングで支援が必要なのかどうか、議論するのが必要なのでは。成人と子どもが混在する年齢があるのは、どうなのか。18 歳になれば成人となることは法律で決まっていることから、18 歳までが子どもではないか。

●体は老化を始める。子どもは成長するから子どもなので、成長しなくなった段階から子どもでなくなると思っている。医療現場としては、小児科とそうでない診療科で分かれてくる。

→子ども条例の子ども部門から年齢をどうしようかという議論はある。大きな要因としてはこども基本法である。定義として「成長の過程にある子」と定義した結果、年齢要件はなくなってしまった。一方で、子どもの権利の話も基本法の中ではでてくる。では我々が作る子ども条例はどうするか。お話を聞いていて、子どもは子どもとして定義として考える。成人になる前の意見表明権であったり、子どもというちゃんとした概念の中で考えていく必要がある。その中で、ひとりひとりの支援年齢に応じてどう考えていくかという視点で考えて行くことが大切である。それを持って計画に落とし込んでいきたい。

（２）子ども総合計画改定に係る基礎調査の中間報告について

●結果は問題ないが、回収率が悪いのが気になる。中学高校の回収率が 2 割を切っている。回答していなかった人たちに課題を抱えている人が多いのではないか。
なぜ回収率が悪かったのか教えてほしい。そしてこの結果をそのまま数字を埋めるのは危険ではないか。計画にどう落とし込むのか。
→ご指摘の通り、回答率は保護者の方も含め、全体として思ったよりかなり低かった。なぜか考えるが、明確な理由は考えられない。分からない。委員がおっしゃったように、学生に関してはオンラインのみでの回答だったことの影響もあるのかもしれない。保護者の方も含め、その時の社会情勢も回答数左右に関係あるかもしれない。
今回は無難な意見が多かった。そういうご家庭が多いのかなという印象は持っている。しかし、これだけの意見、この調査結果だけではなく、計画策定にあたっては様々な視点で、特に子どもの意見を伺っていきたいと考えている。調査結果を鵜呑みにするのではない。回収結果はもう動かせないので、どうやって計画に反映していくか。また、どうやって子ども意見をどう反映するのか、どうやってニーズを把握していくのか考えたい。

（３）子ども総合計画改定に向けた意見聴取等の取組みについて（案）

●パネルディスカッションの対象はどこなのか。３つの中に子どもの声を聞くのが入っていないように見えるが。
→対象者は現在検討中。区民全体に聞くか、直接子どもに来てもらうことも考えている。子どもを

対象としたディスカッションも必要であれば検討すべきとも考えている。提示しているものは提案として捉えてほしい。そのため様々な意見が欲しい。

●パネルディスカッション的なところに子どもを呼んでも何の意見も聞けない。建前の意見しか出てこない。1回だけ実施する等ではなく、どう日常的に子どもの声を拾っていくのかというところがすごく大事。1対1のヒアリングでは、本音は出ない。そういう意味で言うと、一番簡単なのは児童館などで職員が普段の生活の中で子どもが自由に喋り出したことを、後で書き取る・集めていくというのが一番確実。確実に生の声が聞ける。外遊びをやっている団体等に協力、委託をして遊びの現場で遊んでいる中で、聞こえてきた声を集計・集約してもらう。それを一定期間、三ヶ月等かかけてやれば、生の声は集められる。

●この回答率は普通の中間層も回答していないと思う。いろんなお子さんの意見を聞かないといけない。学校で意見が聞けないか。ある程度ボリュームのある層から聞かないといけない。総合的な授業に組み込む等できないか。

●子どもは意見が出にくいと思う。一回では出ないし、すぐには意見が出てこないと思う。
大人が意見を聴くと意気込むのではなく、児童館等で生の声を集めたほうがよい。

●障害児通所支援施設での意見聴取をした時には、木をモチーフにした張り紙などを用いて意見を聴取した。現場の方の意見やノウハウがとても重要。
「ヤングケアラー」「ケアリーバー」などのヒアリングもとても大事だと思う。

●ヤングケアラーに関するイベントに関して、小学生の参加があった。パネルディスカッションの形ではなく、子どもの意見をコンテンツのような形で、学校単位や児童館単位で実施するなどの仕組みがあればいいのではないか。

●集団の意見と個人の意見とあると思うが、自分たちの悩み事を話すのか、目黒区の今後を話すのか、で大きく変わると思う。自分達が目黒で育つ、目黒区の今後を話す場であれば良いと思うが、それだけだとセンシティブなので注意が必要。

●小学校などで今後の目黒区のことを考える場やいじめに関することを考える場があるが、考えるだけで終わってしまう。子どもは理想的なことを書いたりする。生の声を聞くということであれば、各家庭でもできるのではないかと思うが。聴取した子どもの意見を活かすことを考えていくべきなのではないか。学校も人員不足でやれていないことが多いが、家庭内の事情に入れないことがあるが、そこにも支援の手が入る必要があると思う。

●会議の場を設定すると、子どもたちは良いことを言ってしまう。本音は聞き出せない。場を設定したら、その場のゴールに向けて話をしていくので、意味がない。若者世代（18 歳以上）への

意見聴取に関しては、支援が必要な子どもに対して、何が足りてないのか・必要なのかを聞き出す仕組みが重要なのではないか。出てこない。貧困支援団体等に協力を得て、そのような方々から意見を聴くべきではないか。

●学童や放課後等デイサービスも居場所として含めてほしい。

●就学前の０～６歳にどう聞いていくのかを考えるべき。そのような小さな子どもの意見を大人がどうやって受け取っていくかを考えるべきである。その汲み取り方が重要。
おそらく、一緒に暮らしている保育園・幼稚園の先生が重要。加えてそれらに行っていない家庭内の子どもたちの意見をどうやって吸い上げていくかが大事で考えて行く必要がある。代弁にはなってしまうが、子どもの様子を知ることが大事。そして、区がそれらをわかるようにするかが大事だと思う。どのように意見聴取するのかも大事だが、前半の話に出てきていた大人がどういった姿勢で子どもの意見や思いを聴くのか、可能なのか、が知ることの出来る場、どのように知るかが大切。しっかり検討すべきだと思う。

→子どもの意見を聴くことで、どのように計画に反映していくかを考えていくかを考えていくべきである。委員の方々からこの会議以外にも意見があればいただきたい。

（４）特定教育・保育施設の定員について

●小規模保育園の閉園理由を教えてほしい。
→子どもが入れないため閉園。経営的に苦しい。

●「こども誰でも通園制度」に関して、区としてどのように考えているか。あとは、周知方法等は。
→正直悩んでいる。今後国・都の動向を踏まえながら検討していく。ただ、先行自治体の話を聞いていると、やる意義がわかりにくく実施する意義なども整理したい。

●国として実施することは決まっているので、どのようにやるかを区として検討することでよいか。
→次期計画に「こども誰でも通園制度」の内容を盛り込んでいくかを検討していく。

●施設の枠が減っていることが気になる。待機児童が増えるのではないか。
→今後の保育需要を考えると現状の予測では対応できると考えている。

（５）鷹番保育園跡を活用したこども家庭センター等の概要と施設の基本設計について

●施設は駅から近いところに出来上がると思うが、イベントがあって行く人だけではなく、気軽に行けるような場所でいいのではないか。NPO による駄菓子屋や出張図書館等あれば、地域の居場所になるのではないか。地域の人が気軽に行けるような場にしてほしい。

→そもそものコンセプトが、「育児の孤立」を防ぐということがあるので、家庭センターの役割だけではなく、ほかの機能とも連携して地域に根差していきたい。来てもらわないと意味がないと考えている。

●地域が運営に一緒に参加できるように働きかけを行っている。地域とのつながりに関するイベントを行っているのでぜひ参加してほしい。

以　　上